

平成16年度第3回岡山市総合政策審議会 都市・交通部会の主な意見

- 1 日時 平成17年1月28日(金) 13:30~15:23
- 2 場所 ほっとプラザ大供 2階第2研修室
- 3 参加者 委員15名中10名出席
岡山市(都市整備局)
池上都市整備局長、井上局次長、
青木公園緑地部長、坪井土木部長、
安藤都市建築部長、佐藤西部新拠点まちづくり推進本部長ほか
(下水道局)
井上下水道局長、青山局次長ほか
(西大寺支所)
藤原支所長、宮前支所長代理、
川野東部拠点まちづくり推進本部長ほか
事務局：高橋参事ほか

4 傍聴者 1名

5 会議概要

- (1) 都市整備局長あいさつ
(2) 議題の説明、質疑応答および事務連絡

6 主な意見

1 道路愛称の公募について

(質問) これは、スタンスの問題だが、市民が選んで、我々が審査し、市民が共感を得るような愛称をつくろうとしているのか、それとも、市民の共感が無くとも応募してきたものの中から、とにかく10件は選んじゃおうということなのか。

(回答) 市民の皆さんに愛される愛称の募集をやってきたということです。

(質問) 1つの通りについて、1件だけの募集、2件の募集、3件の募集という分類に分けたときのそれぞれの件数はどれくらいか。

(回答) 応募総数183件のうち、通りのダブリは、地元の小学校からまとまって提出があったものを除き、ほとんどは1件のみ。2件のダブリは10件あるかないか程度。

(その他の意見)

- 愛称をつくった後の声心配。よかれと思ってつくった挙げ句、「こんな愛称、誰が決めたんなら」という話から始まり、いろいろわいわいがやがやとなる。また、地元を良く知らない人間が愛称を決めるのはいかがなものか。市民協働からも、一度、該当の町内会のほうへ意見を聞いてみてはどうか。

- 地元の人が、どれだけ愛称に愛着が持てるか。そうでないと、付けただけで、廃れてしまう。そういう意味では、地域の由緒、歴史などを押さえておくことも必要ではないか。
- 道路の起点・終点についても、歴史的なバックグラウンドを考慮することも必要。単に事務的に選ぶのではなく、ここここの間が良いとか、ここは一体だから、ここまで延ばしてあげたほうが良いとか、そういった補正というか委員会としてもお手伝いをしてはどうか。

(部会長総括)

最終的に、当部会で責任を持って選んだと言えるものにしなければならない。そのためには、まず委員が実際に現場を見ること。そして、ある程度ふるいにかけてものを、関係町内会におろし、ご意見をいただいた上で、部会において最終的な審査を行うこととする。

2 旭西処理区合流式下水道の改善計画について

(質問) 雨水処理施設だが、東京なんかでは、地下に宮殿みたいな施設をつくってそこに貯めるとかいうのがあがるが、それをつくれば、上を公園、駐車場とか他の施設にも使えとか、そういった複合的な利用も考えられるのではないか。

(回答) 旭西浄化センターの処理施設が不要になってくる。その施設を雨水滞水池や汚泥貯留槽等に改造するべくお金をかけないで、既存施設を有効活用する方向で考えている。地下施設をつくるのは、膨大な建設費がかかる。岡山市は污水整備がまだ 50 %に達していない下水道整備の発展途上にあるまちのため今ある施設を有効活用していきたい。

(質問) 油脂分の流出管理とは一体どういうことか。下水道へ油を入れるなというこか。使うなどと言っても、使う訳だから。

(回答) 基本的に油分については、公共下水道の中へ流してはいけないことになっており、各家庭でもトラップマスというのを付け、油分は流れないように構造になっているはず。そういった対策がきちりとなされているかということと併せて、下水道の浄化センターからも、放流する際に、オイルボールが流れないように行政側も対策を講じるという意味合いです。

(その他の意見)

- 一番大事なことは、ゴミでも排水でも、ピークのを全部処理しようとする、莫大な費用がかかるので、ピークカットというカタチで、市民が協力していくことが必要。市民環境憲章みたいなものをつくって、市民みんなが守るといようなカタチにしていけることが、市民協働であり、国際的に見ても良い都市、またみんなが協力してまちをつくっていくことにもつながるのではないか。

(部会長総括)

市民に対して、情報を出来るだけ正確に小まめに流して、理解してもらった上で協力し

てもらふことが大切。いい加減なことをやると、自分に跳ね返ってくる訳だから、その辺を良く理解すれば、徐々にでも市民意識も変わってくるし、変えざるを得ない。技術だけで対応しようと思ったら、幾らお金があっても足りない。

3 カネボウ跡地活用方針について

(質問) 図面を見ると、公共ゾーンと民間ゾーンが完全に分離されている。東京とかでは、商業ゾーンの中へ役所が入っていたりする。このような合理的な土地の活用は出来ないものか？この官民の分離の案は決まっているのか。

(回答) 決まってはいるが、財源の問題がある。特に公社から買い取るとなると、公共の部分と民がいっしょになったときに、果たして起債とか補助の部分が確実に設けられるのかというのが、検討課題として残っている。また、公の部分について、建物を建てる部分が流動的であり、図書館の計画、公民館の計画もあるが、それらを一度にまとめ上げるのに、時間がかかるという部分がある。そういった中、出来るだけ早い事業着手を望む声もあるとともに、民が動いてくる一つの時期かな、とも考えております。

(質問) この企画の中に、どこに西大寺らしさがあるのか。そこを訪れ、本当に心に残り、今一度訪れてみたいというふうに思えた場所は、やはり歴史の流れを分断していない場所ではないかと感じるが。また、日本三大奇祭の一つでもある、裸祭りのことを知る施設とか資料館といったものがどこにも無いようだが。

(回答) 資料館のお話あるいは会陽会館というのは、地元の中にもそういう議論がある。資料的な個々の物については、すべて民でお持ちで、かつてそういったものをご寄付願えないかとお願ひしたこともあるが、なかなかご寄付までは至らなかったという事情もある。図書館等の計画もあるので、その中には西大寺の郷土資料を含めたものを置くべきだという考えは持っている。また、意匠等については当然、西大寺を意識したようなものを提案してくださいということは、当然募集要項等へは入れるべきだと考えている。

(その他の意見)

- 岡山市は全体では緑が多いが、まちの中に緑が少ない。これだけの大きな土地があるので、いかにうまく緑を取り入れていくかが大切。
- 本当に何かを持ってきてもらわないと、西大寺はどんどん疲弊しているのは間違いない。
- 50年、100年先を見据えたまちづくりが出来ているか。特に、地元が燃えないといけない。
- まちづくりには、人と人のコミュニケーションをとる場所というか、そういった場所の提供が一番必要。あわせて、福祉、教育、歴史、文化が集約したものでなければ。
- 西大寺を今さらシネマコンプレックスやスーパーマーケットとかで大勢人数を集めて賑やかにするということは、時代的にちょっと難しいのでは。
- 何かつくって残ったところを、そうではないのかもしれないが、広場にするというんじゃなくて、全部緑地にして、西大寺広場というか西大寺の森というか、それを先につくって、あとから施設をばらまいていくのはどうか30年、50年経ったら、おっ、こんな

になったんかというような広場というか、森というか、そういうものが出来れば良いのでは。

○緑地というと、昔は単なる子供の遊び場みたいなところだったが、最近は望まれる機能が随分変わってきた。まちの顔としての位置づけと同時に、避難所等、防災機能も入ってきた。

○この東備地域というのは、精神医療施設の空洞地域。東備地域の患者さんや心の病を持っている皆さんは、岡山市内、または倉敷の方まで通ってこななければならないのが現状。また、現代の心の病は増加中である。この西大寺という地域が東備地域の皆さんにとって、通院またコミュニケーションのとれる作業所等に最適な場所となるのではないか。

(部会長総括)

官民協働というのは、土地を2つに分けて官と民が使うのが協働ではなく、どれだけオーバーラップさせるかが大切。この土地の話が出たのは十数年前のことだが、どうも当時の話を引きずっている。当時とは、随分社会情勢も変わってきており、委員の方もおっしゃったように先を見据えたものとするためにも、もう一度きちっと議論する場が必要。

地元の意見がここに集約されており、地元の意見は当然最大限尊重しなければならないが、本日の意見を踏まえた上で、なおかつ、本当に踏み出すときに、もう1回検討の場を持たせて欲しい。